



市原圏障害者グループホーム等
世話人研修会



「のどに物が詰まった」「意識がなくなった」「呼吸をしていない」「血が止まらない」等、日頃、世話人はホームで1人支援を行っている時間帯も長いため、消防署への通報、応急処置が必要な場面に直面することが予想されます。そこで、今回は1人でも落ち着いて適切な対応ができることを目的として、8月22日に姉崎保健福祉センターで世話人研修会を開催しました。姉崎消防署の協力の下、正しい知識と技術を身につけるため、市原圏の26人の世話人が市原市民会館に集まりました。参加者からは「実際に訓練をしておく心構えが違う」という感想がありました。この研修は、世話人自身も安心して支援を行える効果もあったようです。

中核地域生活支援センターいちほら福祉ネット

『地域になくしてはならない中核を目指して活動中!』

中核地域生活支援センターは、24時間365日体制で福祉の総合相談・権利擁護・地域づくりの活動をする千葉県独自の事業です。県内には13ヶ所のセンターがあり、ききょう会は平成18年に市原圏の委託を受け、いちほら福祉ネットをオープンしています。障害の有無や年齢に関係なく、福祉領域を中心としたさまざまな生活上の困りごとについて、ご相談をお受けしています。

中核センターの特徴をご紹介します。まず1つは、相談対応はこちらから出向いたり(アウトリーチといえます)、ご

本人だけでは難しい手続きに同行したり、手助けが必要な場面には直接支援も行いながら、具体的に問題解決していくプロセスをご本人達と共に行うという点です。2つめは、個別の相談対応だけで終わらせず、そこから見えてくる課題を関係機関などに発信・共有し、地域全体で考えていくよう働きかけていく点です。7年間で対応した件数は延べ42,700件を超え(月平均500件超)、地域の様々な会議やイベント等を通じて強力なネットワークを作っています。1つ1つの困りごとにちゃんと向き合い、関係する様々な立場の人

たちと一緒に知恵を絞り、汗を流すことが、地域を良くしていくためにはとても大事なことだと感じています。

7月20日、県内の中核センター全体で『中核センター大会2013』を開催しました。厚生労働省事務次官の村木厚子さん(写真)をお招きし、これから国が進める生活困窮者支援についてご講演いただきました。村木さんの“困っている人をみんなので支える仕組みを作りたい”という熱い想いと、改めて今、中核センターのような機能が必要とされていることを感じました。



厚生労働省事務次官
村木厚子氏

編集後記

今年は、グラウンドにアウトドア設備が完成し、ききょう祭や各棟で行うデイキャンプで大活躍となりました。新しい設備で行う行事

は新鮮な気持ちで参加出来たのではないかと思います。これから、利用者さんのたくさんの笑顔が見られるよう頑張っていきたいと思えます。

まきよう タイムズ TIMES

発行：社会福祉法人ききょう会 編集：吉沢学園編集部
〒290-0523 千葉県市原市吉沢117番地 TEL.0436-98-1562 FAX.0436-98-1398

No. 60 平成25年10月1日発行

アウトドア設備に『ピザ窯』!



▲焼き上がったピザ

▲焼いている風景

吉沢学園では、例年、夏季にデイキャンプをグラウンドで行っているが、利用者にとっては夏のお楽しみの一つとなっています。今まではブロックをその都度組んで釜炊きを実施していましたが、今年の夏、用いたところ、やはり人気メニューを新設しました。水道設備にバキュー用かまどはもちろん、ピザ窯も完備しています。職員の中にはピザ作りの経験者もいますが、窯で焼くのは初めてという事もあり、通じて利用するほか、災害時など火力調整に悪戦苦闘。試作品を食べた職員からの「ピザの具と味

「ピザって美味しいね」って、すぐに食べきっちゃいました。外出先でのご飯も楽しみにされている利用者も多いですが、デイキャンプも人気があります。自分で献立を考えて青空の下で作ったご飯は格別のような感じです。

